



霞ヶ浦について（特徴と現状）

日本第2位の面積を有する霞ヶ浦(西浦)は、茨城県を代表する美しい景観を作り、周辺は一大観光地となっています。

一方、平均水深4mと面積の割に浅い上湖岸線が長く、平坦な地形で田畑や住宅等が近接しているため、水質が悪化しやすいことも特徴です。昭和40年代後半から水質の汚濁が進行し、近年は水質浄化の目標が達成されないまま、水質指標値はほぼ横ばいで推移しています。



湖岸はほとんどが人工護岸で、人工的な水位の上昇や返し波等の影響もあり植物帯や湿地が極めて少なくなっています。対策として、茨城県は平成12年度から「漁場環境保全創造事業」として霞ヶ浦・北浦に合計約9ha・湖岸総延長約3kmの水生植物帯を造成しました。

漁業生産については、全国生産（湖沼計）に占める割合（平成28年度）がワカサギで約15%、エビ類で約67%と高いものの、絶対量は昭和50年頃の全盛期と比べると激減しているのが現状です。

活動の実績

活動組織では発足以来、ヨシの刈取り、浮遊・堆積物の除去を行っています。刈取ること、強いヨシが育ち繁茂が促されます。また、刈り取ったヨシは堆肥用の材料として再利用するので、窒素やリン等の栄養分が湖外に持ち出され、霞ヶ浦の水質浄化につながっています。

さらに、生態系の保全活動としてウナギの種苗放流を行っています。



活動組織について

設立 平成21年11月

目的 水生植物帯（ヨシ帯）の保全，生態系の保全

構成員 54名（茨城県かすみがうら市地区の漁業者及び地域住民）

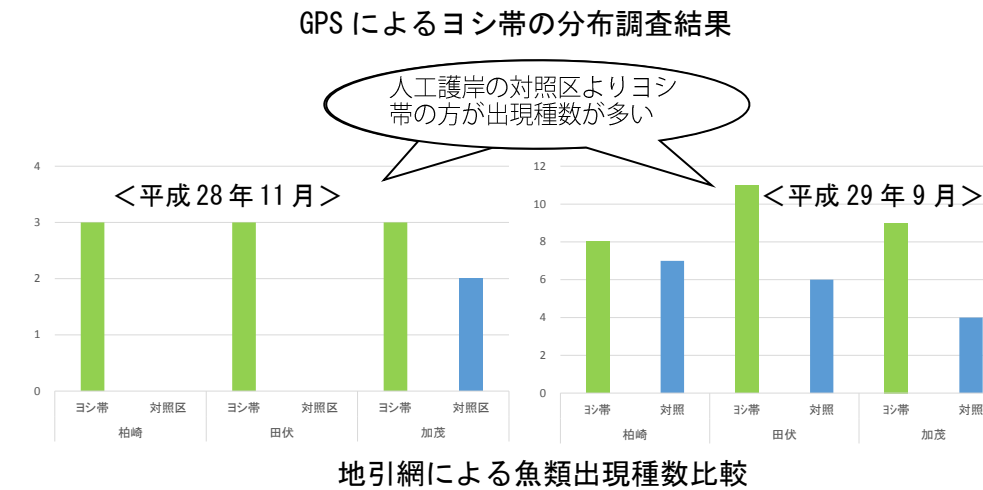
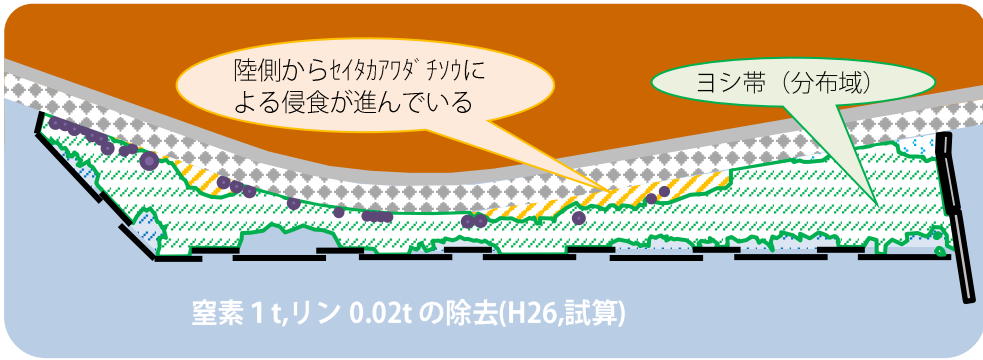
活動 活動項目及び活動スケジュールは下表の通り。

活動項目	活動内容	8	9	10	11	12	1	2	3
ヨシ帯の保全	定常モニタリング	○	○	○					○
	生育モニタリング	○	○		○				
	ヨシ帯の刈取り							○	○
生態系の保全	種苗放流		○						
	モニタリング			○	○				

継続的な活動とモニタリング

活動組織では、平成28年度からサポート組織を活用し、モニタリングの幅を広げています。活動組織はヨシ帯生え際のモニタリングを、サポート組織はGPSを用いたヨシ帯分布調査や、定置網・地引網を用いた昼夜の魚類相の調査などを行っています。

その結果、ヨシ帯自体はほぼ被度・密度を保っているものの、陸側からセイタカアワダチソウに侵食されつつある実態の詳細や、規模がさほど大きくないヨシ帯でも昼間は魚類に隠れ家として利用されていることなどが確認できました。



より効果的な活動のために

平成29年度は、モニタリングの精度を向上させるため、ヨシ帯モニタリングについては杭打ちによる生え際のチェック、ヨシの刈取りについては一部刈残しによる被度・密度の検証、魚類相調査においては人口産卵床の設置による利用状況の（ヨシ帯内外の）比較・確認等の導入を進めています。

